

新疆大学沙漠緑化協会日本支部

2009 年度の活動報告

新疆大学沙漠緑化協会日本支部が実施してきた 2009 年度の活動内容を以下のとおりご報告いたします。本年度も外的な要因のために多くの制約が生じ、当初の計画通りに進まなかったことは残念であります。

1. 活動内容(概要)

日本支部は、全部で 4 項目が設定されている新疆大学沙漠緑化国際研究プロジェクトの活動方針の中で、次の 2 項目に限定した活動を 2005 年より昨年まで 6 回実施し、プロジェクトに参画・貢献をしてきています。

①プロジェクトの研究予定地(沙漠)に毎年植樹し、データ取得など研究の推進に貢献すること。

②新疆大学の教職員や学生たちとの国際交流を通じて、国際力を持った人材養成に貢献すること。

今年度は、7 月 5 日新疆ウイグル自治区の区都ウルムチで治安問題が発生し、日本でも大きく報道されてそれに起因した外務省による渡航自粛により 1 回(第一次日本支部代表团、6 月)だけの実施となりました。今年度の計画では、10 月までに 4 回の派遣を予定し、詳細な実施計画書を作成していましたが、残念ながら中止にしなければなりません。幸いにも、一般社会人を対象とした第一次の日本支部代表团が派遣できたこと、現地で具体的な植樹作業が実施できたこと、さらに日本人参加者(55 歳以上の男女 11 名)全員が元気で帰国できたことは大変嬉しい思いであります。特に、新疆大学の教職員や学生との合同植樹作業と交流が大変盛り上がり、双方から好評を博したことは、今後の日本支部の活動(特に募集活動)に関して大いに自信を深める事ができました。

2. 活動の成果

- 1) **国際交流** : 5 年目の今年度は新疆大学内で日本支部の活動が広く認知されるようになり、自然環境学部の学生や大学院生だけでなく、他の学部からの参加希望者も多くなり、参加者の選出には抽選をするほどの人気を博していると言われました。国際交流は順調に推移していると自信を深めています。
- 2) **植樹活動** : 植樹活動の対象地は、近い将来、沙漠の研究に関して国際的な研究施設の設立を予定している 520 ヘクタールの土地(沙漠)です。2007 年の日本支部設立当初の予定では、研究施設の建設は 2009 年でしたが諸事情によりいまだ未完成です。その為、植樹後の管理が不十分であるなどの理由により活着率が極めて低く(10%以下)、残念ながらデータ収集などの研究推進への貢献には至っていません。現地管理人の常勤雇用が予定されている 2010 年度からになります。

3. 参加者の声

日本支部代表团全員が、予定した 2 日間にわたる作業を驚くほどスムーズにそしてスピーディに行い、「もう終わりですか?」と言われるほどであった。その為、植樹活動を終えた後も全員が元気いっぱい、予定時間の余った分を利用した沙漠でのお茶タイムなど、楽しい交流ができた点も大変好評でした。なお、「研究施設建設予定地の余りの広大さ」に全員が驚きの声をあげていたことが印象的でした。

4. 沙漠緑化活動表

実施時期(2009 年)		6 月 3 日	6 月 4 日	計	備考
作業内容	草方格面積	100 m ²		100 m ²	約 80 個の草方格を作る
	植付面積		100 m ²	100 m ²	1 区画 4~5 個の穴を掘り
	植付本数		1,000 本	1,000 本	1 個の穴に苗 3 本植える
参加者数	日本支部	12 名	12 名	24 名	延べ参加人数 53 名
	新疆大学	14 名	15 名	29 名	
実施場所		新疆大学沙漠緑化国際研究基地 / 新疆ウイグル自治区阜康(フーカン)			

5. 協賛金

第一次代表团参加者より 5 万円、(株)ワールドプランニングオフィス・プラティナクラブより 4 万円の協賛を頂き、今回の第一次代表団の植樹費用に充当致しました。 * 苗 1 本の価格:3 元=45 円

「写真-1」 阜康(フーカン)にある新疆大学沙漠緑化国際研究センター建設予定地での植樹活動

第一日目は、草方格の(そうほうかく)作業

*草方格:砂の流動化を防ぐための緑化技法のひとつ

今回は大量の麦藁(むぎわら)を農家から協賛してもらい、その麦藁を使って1m四方の区画を作りました

*この事業は、(社)国土緑化推進機構「緑の募金交付金」の助成を2008年度に受けています



「写真-2」 阜康(フーカン)にある新疆大学沙漠緑化国際研究センター建設予定地での植樹活動

植樹活動2日目は、前日に作った草方格の中に沙漠植物を植える作業

今回は、新疆の沙漠で代表的な沙漠植物である「砂ナツメ」の苗を1000本植えました

*その他新疆の沙漠植物 : ソウソウ(新疆特有)、紅柳(タマリスク)など



「写真-3」 阜康(フーカン)にある新疆大学沙漠緑化国際研究センター建設予定地での植樹活動

草方格(1区画)の4隅に沙漠植物「砂ナツメ」の苗を植える作業で、表面の乾いた砂(黄砂と同じ砂質で大変細かい、約10~30センチ下には湿った土がある)をスコップで取り除き、さらに湿った土を約30~40センチほど掘り下げて、穴1個につき原則3本の苗を植えていく作業です



「写真-4」 2日間の植樹活動を予定通り終了し、全員で記念写真

2日間の参加延人数は、日本支部24名、新疆大学教職員・学生29名、合計53名です

***新疆ウイグル自治区の沙漠化は、日本及び東アジアにとって深刻な環境問題です、面積は日本の約4倍、沙漠面積は内蒙古自治区の約2倍、数年前からの沙漠緑化の推進で沙漠化の拡大が抑えられています**



「写真-5」 新疆大学資源環境科学学部での日本語による特別講義の様子

○講義のテーマ:新疆ウイグル自治区の沙漠化と対策及び新疆大学沙漠緑化協会の活動について

○特別講師 :新疆大学副学長 **Dr. Prof. Tashpolat Tiyip** (新疆大学沙漠緑化協会理事長)と
新疆大学沙漠緑化協会日本支部理事長 **大林 成行** (新疆大学名誉教授)



「写真-6」 新疆大学本校のキャンパス風景

新疆大学はウルムチ市の南に位置、別に南と北の新しいキャンパスを持つ中国有数の総合大学
近年、沙漠化と水資源の研究で世界の先端研究機関となり、自前の沙漠研究地を持つまでになりました
研究の最高責任者が、新疆大学副学長 **Dr. Prof. Tashpolat Tiyip** で大林教授の教え子です

